

令和5年度研究推進計画

学校名 東広島市立磯松中学校
学校長名 郷 地 忠 幸 印

1 研究主題，研究内容，方法等について

(1) 研究主題

「主体的・協働的に取り組める生徒を育成する授業づくり」
～ユニバーサルデザインの視点を活用して～

(2) 主題設定の理由

本校では昨年度「資質・能力を育成する教育」～見方・考え方を働かせる話し合い活動を通して～を研究主題に掲げ、学活の時間や話し合い活動などを通して、コミュニケーション能力の向上や学校が設定する資質・能力の育成をすることができた。その一方で、学力面においては昨年度の習熟度テストの結果、本校の学力が全国平均を大きく下回る実情があり、課題として挙げられることがわかった。これには、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編で、育成すべき資質・能力の三つの柱の一つとして挙げられる、「知識及び技能」の習得が十分にできていないということが考えられる。さらには家庭学習の習慣の定着がなされていない生徒が多いことから、同じく育成すべき資質・能力の三つの柱の一つとして挙げられる「学びに向かう力」が身に付いていないことも考えられる。

そこで、今年度の研究は昨年度の内容とは方向性を変更し、学力や学習意欲に課題のある生徒の資質・能力の底上げを行うべく、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善を軸とした研究を推進していく。ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備や授業づくりを意識的に行っていくことで、「授業が分かった」という達成感を涵養し、そこから「さらに学びたい」という学習意欲を向上させる。そのような肯定的なサイクルの中で本校が育成したい資質・能力である「主体力・表現力・協働力」を高めていきたいと考える。

(3) 研究仮説

ユニバーサルデザインを生かした環境づくりを土台として、ユニバーサルデザインの技法論である「焦点化・視覚化・共有化」を取り入れた授業を展開すれば、課題のある生徒への個別の支援も行うことができ、授業内容が理解できたという達成感を得られる生徒が増える。それによって、さらに学びたいという学習意欲が向上し、本校が育成したい資質・能力である「主体力・表現力・協働力」が高まるのではないかと考える。

(4) 研究内容

①ユニバーサルデザインの技法を生かした授業づくり

ア 焦点化

- ・授業の山場をつくる。
- ・授業内容の本質を見極め、授業構成をシンプルにする。
- ・発問・ヒントを工夫する。

イ 視覚化

- ・意見や大切な言葉を板書する。
- ・ICTを活用する。
- ・分かりにくいところを視覚化する。

ウ 共有化

- ・ペア等で説明し合い、考えを共有させる。
- ・自分の言葉で説明させる。

- ・グループによる一次共有，全体による二次共有をさせる。

②ユニバーサルデザインを生かした環境づくり

- ア 時間の構造化
 - ・授業の見通しを目に見える形で示す。
- イ 刺激量の調整
 - ・掲示物や物，音等，授業に関係ない刺激を減らす。
- ウ 多様な学びの支援
 - ・「やる気・記憶・注意」をベース，「マルチ知能」を使う。
- エ 主体的な学びの推進
 - ・家庭学習で取り組む課題の量を調整する。

③基礎学力向上に向けた取り組み

- ア 自己の課題に応じた学習を選択して行える時間づくり
- イ 日々の日記を確実に書ききる習慣づくり
- ウ 学びを深め，表現する新聞レポートの実施

(5) 検証の方法及び指標

- ・「主体的・協働的に取り組める生徒の育成」について，取組前後の生徒及び教員の授業に対する意識調査を比較し，各項目で肯定的評価の割合が80%以上となることを目指す。
- ・各教科でのブロック研修で，ユニバーサルデザインの技法を生かした授業づくりに関する取組が，目指す生徒像の実現に有効だったかについて質的に検証する。

2 検証計画

- (1) 5月，7月，11月の各1回，生徒や教員に授業に対する意識調査を実施する。
- (2) 各教科でのブロック研修で，ユニバーサルデザインの技法を生かした授業づくりに関する取組が，目指す生徒像の実現に有効だったかについて質的に検証し，成果と課題，改善点を明らかにする。

3 校内研修計画

- 4月 研究の方向性を定め，校内研修で共通認識を図る。
- 5月 校内研修で，取組の具体と指導案作成について共通認識を図る。
- 5月 生徒，教員に学習や授業に対する意識調査（事前）を実施する。
- 5月～7月 各教科においてブロック研修を実施する。
- 7月 生徒，教員に学習や授業に対する意識調査（事後1回目）を実施する。
- 8月 校内研修で，前期前半の振り返りと，今後の取組について協議する。
- 9月～11月 各教科においてブロック研修を実施する。
- 11月 校内研修で，これまでの取組の振り返りと，今後の取組について協議する。
生徒，教員に学習や授業に対する意識調査（事後2回目）を実施する。
- 12月 校内研修で，後期前半の振り返りと，今後の取組について協議する。
- 2月 本年度の成果と課題について整理する。
- 3月 令和6年度の研究の方向性を検討する。

4 研究公開の予定について

なし

研究構想図

学校教育目標
確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成



学校で育成する資質・能力

① 「主体力」…わからないことやできないことがあっても、あきらめず粘り強く取り組む力。
 ② 「表現力」…自分の考えていることを、相手に理解してもらえるように工夫して伝える力。
 ③ 「協働力」…他者の意見を聞いて考えを深めたり、仲間を援助したり、助言したりして、協働しながらより良いものを創造していく力。



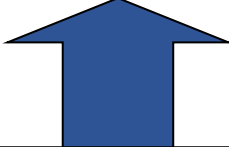
研究主題 『主体的・協働的に取り組める生徒を育成する授業づくり』
～ユニバーサルデザインの視点を活用して～



さらに学びたいという学習意欲の向上



「わかった」・「できた」を実感できる



授業力・指導力の向上
 (理解を促すユニバーサルデザインの視点を活用した工夫)

焦点化	視覚化	共有化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の山場をつくる。 ・ 授業内容の本質を見極め、授業構成をシンプルにする。 ・ 発問・ヒントを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見や大切な言葉を板書する。 ・ ICTを活用する。 ・ 分かりにくいところを視覚化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペア等で説明し合い、考えを共有させる。 ・ 自分の言葉で説明させる。 ・ グループによる一次共有、全体による二次共有をさせる。



参加を促すユニバーサルデザインを生かした環境づくり			
時間の構造化	刺激量の調整	多様な学びの支援	主体的な学びの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の見通しを目に見える形で示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物や物、音等、授業に関係のない刺激を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「やる気・記憶・注意」をベースに、「マルチ知能」を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習で取り組む課題の量を調整する。

